



アニメ「ゆるキャン」に薪を針金で束ねてスウェディッシュトーチの様に燃やすシーンがあり、燃焼中に束ねた薪が崩れるヒヤリハットの結果に終わります。一昨年の薪作り体験会でスウェディッシュトーチを燃やしましたが（詳しくはスタッフブログで）、燃焼が進むとトーチの崩壊が起きました。そこで最後まで調理に使用できる「ウッドトーチ台」を考案してみました。先日のスタッフブログでも紹介しましたが、最終的にL字アンカーボルトを穴の開いたチップソーに3～4本固定し、金網で囲う方法が一番よかったです。アンカーボルトの先端がL字なので火にかける鍋の大きさが自由になり、金網で囲うと枝や薪を束ねる必要もなくなりました。熾火もこぼれず最後まできれいに燃え尽きます。

APR 2018

冬のアニマルトラッキング

新雪の森で足跡を探す

加藤秋子



2018年2月11日、三連休中日の日曜日に行われたイベント「アニマルトラッキング」に参加しました。参加者は16人と2匹でした。

前回2017年2月26日の「アニマルトラッキング」にも参加しましたが、このときは雪が予想外に少なく、しかもかなり以前に降った状態の悪い雪でした。それでも鹿を中心に野ウサギなどの足跡や糞、食痕等を観察できました。どのイベントでも天気は気がかりですが、アニマルトラッキングは積雪がなければどうにもなりません。状況をみて直前に日を決めるというわけにもいかず、難しいところだと思います。二度目の今回は、時期を少し早めての開催となりました。今年の野辺山は雪が少なく、1月半ばまで積雪ゼロの状態が続きました。1月下旬になってようやくまとまった雪が降り、幸先が良くなってきました。前日の2月10日、この時期にしてはとても暖かな陽気でしたが、夕方から天気予報通り雪が降り始め、未明まで降り続いたようです。日曜の朝には15cmくらいの新雪が積もっていました。日曜日も晴れて、穏やかな暖かい一日になりました。

当日は管理棟で集合し、会長からアニマルトラッキングの簡単な説明がありました。前回は先生や職員の方たちに教えてもらいながら歩きましたが、今回は参加者自ら足跡を探して動物の種類を特定してもらうとのこと。そのためのツールとして「足跡カード」が一人一枚配られました。一枚のカードには一種類の動物の情報と足跡が描かれています。現地で足跡を見つけたら、自分のカードの動物のものかどうか、各自判定してくださいという趣旨でした。私と主人にはキツネとウサギのカードが回ってきました。フィールドで図鑑をめくるよりも簡便で、全員が主体的に関わりながら学べる、良いアイデアだと思いました。

説明が終わり、車に分乗して川上演習林に向かいました。ところが、連休の中日、晴天、新雪もたっ

ぷりという好条件が重なったせいか、川上演習林手前のシャトレーズスキー場に至る道路がまさかの渋滞。急遽行き先を変更してハケ岳演習林に行くことになりました。林道入り口付近に車を止め、参加者の多くはスノーシューを履いて歩き始めました。ハケ岳演習林は、比較的平坦な地形で、ミズナラなど広葉樹の原生林に覆われ、葉が落ちた冬は明るい林です。傾斜が急で植林した針葉樹の多い川上演習林とは、同じ冬季の森でも随分雰囲気違います。新雪の積もった冬の森をスノーシューで歩くのは、楽しい体験でした。一緒に連れてきたわが家の大きな子犬は、新雪と沢山の人が一緒なことが嬉しくてすっかりテンションが上がり、おおはしゃぎでした。

足跡に注意しながら、どんどん林道を奥へと進みました。ところが、行けども行けども足跡が見当たりません。足跡かと思ってよく見ると、樹上から落ちた小さな雪の塊が作ったくぼみだということも度々。あまりに足跡がないので、途中で参加者のうちの2匹の出番がやってきました。新雪の上を歩かせてどんな足跡が残るか、観察しようというのです。犬の足跡を見慣れていれば、野生動物、たとえばキツネやタヌキの足跡との区別もつきやすくなります。意外なことに、森の中の足跡は野生動物のものとは限りません。演習林に設置された赤外線センサーカメラには、タヌキ、キツネ、アナグマなどとともに猫たちの姿もよく写っています。野辺山の猫たちは、自由に森を歩き回っているようです。

足跡を探したり、犬の足跡を見たりしながら、30分ほど歩いたでしょうか。とうとう野生動物の足跡にひとつも出会わないまま、折り返し地点まで来てしまいました。ここで参加者の集合写真を撮り、来た道を引き返しました。小鳥の囀りがあちこちで聞こえ、姿を探してみます（もはや足跡は諦め気味・・・）。冬枯れの森では小鳥の姿を見つけるのも案外難しく、声がすれども姿は見えず。雪と



天気には恵まれたものの、動物に関しては完全に空振りのまま、スタート地点に戻ってきました。ところが車の近く、林道のすぐ脇で、この日最初で最後の足跡が見つかりました。出発時に見落としたこの足跡は、どうやらキツネのようで、林道を横切るようにして森の中に続いていました。ようやく足跡発見となったところで、午前の「アニマルトラッキング」の部は終了。せっかく用意していただいた「足跡カード」は結局出番なし。野生動物の足跡を踏み荒らしてしまわないか心配しながらの犬連れ参加でしたが、心配が杞憂に終わったのは幸か不幸か・・・。

それにしても、どうしてこんなに足跡がなかったのでしょうか。演習林に一番多く出没する動物は鹿だと思いますが、真冬のこの時期、鹿は野辺山にはあまりいないそうです。でもキツネやウサギは、冬でもこの辺りで活動しています。雪が止んだあと早朝に動いた動物がもう少しでもよさそうな気がしました。昨年、赤外線センサーカメラのデータ記録のお手伝いをして、いろいろな動物が夜から朝にかけて林道をウロウロしているのを知っているだけに、足跡の少なさは予想外でした。動物写真家の宮崎学さんが、こんなことを書いています。「低気圧がやってきて、長い時間にわたって深々と雪が降りつづけるような夜には、動物たちは出歩きません。しかし『どんなに雪が降っていても低気圧が過ぎてやがて雪が止む』といったような天候なら、動物たちは降り続く雪のなかでも出歩きます。野生動物たちには気圧を知るセンサーが、どうやら備わっているようなのです。こうした動物たちの習性を知っていると、雪の降り方を察知しながら、フィールド歩きのチャンスを見極めることができ、それが撮影のチャンスにもなるのです」(注)。前日夕方からの雪が止んだあと、動物が出歩きそうな日だった気がします。もっとも雪が止んだ未明頃から私たちが到着した11時前までの短い時間では、もとも

とあまり多くの動物の出現は望めないのかもしれませんが。ふわふわの新雪が深く、小動物は歩きにくかったかな、とも想像します。

足跡だけでなく、去年の川上演習林では見られた食痕やシカの角研ぎ痕などの痕跡も、今回は見つかりませんでした。動物の密度や演習林での過ごし方が、川上と八ヶ岳では違うのでしょうか。川上演習林は秩父の山々につらなる深い森の一部ですが、八ヶ岳演習林は周囲が拓かれ畑になっています。森に棲んでいる動物はあまり多くはなさそうで、山から降りてきた動物たちが通過していく場所のような感じでもあります。天候や積雪量・雪の状態などの条件、そして森や周囲の環境の違い、動物の食性や行動。そうしたことをより深く知ると、宮崎さんが書かれているようにフィールド歩き・撮影のチャンスを掴めるようになるのかもしれませんが。赤外線カメラのデータも参考にしつつ、イベント直前の天候や積雪から、どこでどのくらいどんな動物の足跡が見られるか予想を立てながら歩いてみたら、参加者の動物観察スキルも磨かれるかもしれない、などと、後日いろんなことを考えました。

さて、演習林に戻って野外実習棟で昼食をとったあと、午後は雪上焚き火にトライ。雪を固めたところに薪を並べ、周囲の森で手に入る小枝や木の皮だけを焚き付けにして火を熾しました。全員首尾よく火がつき、いくつもの小さな焚き火から煙が上がったところで、ししゃも、ソーセージ、マッシュマロなどを炙っていただきました。イベント毎に様々な工夫をして準備してくださるスタッフの皆様に感謝申し上げます。最後は、今後恵の会でやりたいことなど、参加者からの要望を聞いて、今年度最後のイベントが終了しました。

(注) 宮崎学『森の動物日記』の記事「新雪の跡からさぐる動物の動き」(2018年2月15日)より。
<http://fireside-essay.jp/miyazaki/risu/746.html>



アニマルトラッキング報告

園部 守

昨年は雪不足のため、動物の足跡よりも食痕や糞などをたよりに森の動物の痕跡探し。普段気付かず見逃していた森の中に、よく見るとたくさんの痕跡があることに感動し、早速山荘で暗視カメラを設置したり、野鳥のえさ台を作ったりしました。

その後、ひょんなことからこれまでやっていた畑を2倍に拡張、菊芋と異常気象とのバトルの末にジャガイモ、青首大根、沢庵大根、白菜などの収穫と加工、知人への出荷などで春から秋は慌ただしく、秋にはこれまたひょんなことから友人と共同で12.5tの薪原木を購入、横浜との往復生活の中、玉切り、運び上げ、薪割り、収納と年末までドタバタしました。お蔭で森の恵み会にもご無沙汰。アニマルトラッキング観察会に1年ぶりの復活参加となりました。

今年は昨年とはうって変わって比較的雪も多く、前日は雪の予報に、期待を膨らませ連れ合いと娘を引き連れての参加となりました。

いつも通り10時に管理棟に集合、先生から簡単な日程説明。今回は、周辺で見られるアニマルトラックのカードが受付に用意され、自分が引き当てたカードのトラックを自分で見つけて、それを参加者

の皆さんに解説するという新趣向が加わりましたが、今年は昨年とは反対に、降雪直後なので、動物の足跡は見つけられないかも、というお話し。

それでも降雪直後のバージンスノーの雪原と快晴の天气に、きっと足跡のいくつかは見られるのではとの期待を胸に、一同、川上演習林に向かって出発。ところが野辺山の踏切の先で時ならぬ渋滞。3連休の中日とあってシャトレーズスキー場に入る駐車待ちの車。やむなく車をUターンさせ、八ヶ岳演習林にトラッキング場所を変更しました。八ヶ岳演習林は国道141号の八ヶ岳側に位置し、八ヶ岳の広大な裾野の一角で比較的平坦な明るい山林。今回は雪に埋もれていましたが周回の遊歩道も整備されていて、トラッキング以外にも楽しめそう。

さて今回は参加者は16人、これに加えてアレックス(ミックス)、タラ(アイリッシュウルフハウンド)の飼い犬2頭が参加。膝下まで新雪に、スノーシューを着装した参加者を先頭に、「犬は喜び庭駆け回り」よろしく元気に跳ね回るアレックス、タラと抜きつ抜かれつしながら林道を前進。しかし、行けども行けども痕跡らしい足跡は見つからず、雪の降っている間は動物も巣穴に籠もって出てこないのは人間と同じ、という先生の解説に納得。記念撮影をして撤退することとしました。

残念と思いながら車のところまで戻ってきて一同ビックリ、車のすぐ脇に動物の足跡を発見。狐のものとのこと。出発の時に誰も気付かなかったのが不思議でしたが、今回発見できた唯一のヒューマンとドッグ以外のアニマルトラックでありました。

野外活動棟に戻ってストーブを囲み昼食、そして演習棟前の雪原を使って雪上たき火。こちらは新雪たっぷり絶好のコンディション。各自、雪を踏み固めて薪数本で枕を作り、その上で採集した小枝、樹皮などをたきつけにたき火を起こす実習です。山でのビバークばかりでなく、雪道で車が立ち往生したり、脱輪して動けなくなったときに役立つ、という杉山さんの解説に北陸の大雪被害を思い出しながら納得。ここでも杉山さんの新兵器「手動チェーンソー」が登場。実用性はともかく、道具としてはなかなか面白い。(来年はたき火で使用するお燗器などという新兵器が登場するのでしょうか...)そして盛んに燃え上がった各自のたき火で、これも杉山さんがご用意頂いたウインナーやベーコン、ししゃも、マシュマロなどを竹串に刺し、あぶって美味しました。

アニマルトラッキングという行事の主目的はまた来年に期待をつなぐとして、今回も楽しい一日を過ごせました。杉山さんはじめ、スタッフの皆様に感謝申し上げます。



森の恵み会によせて

島崎野乃子

こんにちは、学生会員の島崎と申します。拠点
が遠方であることと日々の怠惰が生んだ山積みの
課題を理由に、入会2年弱にして参加回数たった4
回という体たらくぶりですが、毎回楽しく貴重な経
験をさせていただいています。実家は埼玉県にあり
私自身は普段茨城で一人暮らしをしている現在
ですが、生まれは長野で8歳までは学校で「信濃
の国」を歌っていた身でした。ですから中央線と小
海線乗り継ぐうちに雪をかぶった峰々が近づいて
くると、毎回ワクワクと胸が躍ってしまいます（山
の名前はうろ覚えなのですが）。どうぞよろしくお
願いいたします。

森の恵み会との出会いは忘れもしません、憧れ
の教授の初回講義冒頭でした。授業開始からもの
の数分後、会の楽しそうな活動に引き込まれた私
は既に次の休み時間には入会の意思を伝えようと
心は決まっていたのです。森林や野生動物に関わ
ることのできる貴重な機会であるからという志望理
由は半分本当で、演習林の方々に顔を覚えてもらえ
るかもしれないという邪な考えがもう半分の理由
でした。かくして森の恵み会の一員に加えていただ
く運びとなったのです。

博識な皆さんの前で好きを語るにはあまりに浅
学な身ですが、鳥が好きで暇を見つけては双眼鏡
を手に近所を散策しています。現在某ネイチャーセ

ンターでインタープリターとしてアルバイトをしなが
ら鳥を含めた里山の生き物について勉強中です。
中でも一等好きなのがカワセミで、もう恋をしてい
ると言っても過言ではないように思うほどです。
チーッという甲高い声を聴いただけでしびれてし
まいます。筑波大学構内の池ではよくカワセミが
声を上げているので、池の近くの教室で講義を聞
いていると度々話の内容がすっぱり頭から抜けてい
ます。小中学校時代には毎日のようにポイントへ
出かけて行って、同じくカワセミに憑りつかれたカ
メラマンのおじさんたちにずいぶんかわいがって
もらいました。今思えば、カワセミそのものに魅せ
られていただけではなく、カワセミを愛する人たちが
集う環境が心地よかったのかもしれません。

森の恵み会に参加すると、なんだかカワセミのい
る水辺に近いような空気を感じることがあります。
人見知りが高じてなかなか自分から会話に入る勇
気が持てないのですが、いつもこっそり皆さんの家
にやってくる野鳥や見かけた動物たちのお話に聞き
耳を立てて勝手に楽しんでおります。

余談ですが、カワセミを探す時にはカワセミそ
のものではなく水辺で張っているカメラマンを探
するのが私のオススメです。真剣にシャッターを切っ
ている最中に邪魔をしてしまうと当然大顰蹙なので、
いつも遠くから様子をうかがいながらじりじり近づ
いています。

最後になりますが、これからも森の恵み会でた
くさんの方と交流できること、恵みの森の自然を堪
能できる機会を楽しみにしております。自己紹介の
ような形になってしまいましたが、乱文をお読みく
ださいありがとうございました。



チャットワークから

成沢健二 ▶ 井波明宏さん

これは何でしょう？ 実は私はニラだと思ってニラ玉で2回も食してしまいました！ 5日前になります。体調は現在のところ妻も私も問題ありません。どうも花が一輪咲きなのでおかしいかな？ と思って…葉を切るとにんにくのような強い匂いを発します。茎の形状はオーバル型です。根っこはひげ根でしたが、若干球根のようなふくら芽もあったような…妻からは『水仙で殺されるかと思った』と言われてしまいました。ご教示ください。



成沢健二 ▶ 井波明宏さん

たった今、見付かりました。これですね、ニラハナ。毒とは書いていませんが、大丈夫かな～？ それとも井波さん、もう私は既に死んでいる？？？ちなみに… 花言葉は「別れの悲しみ」「耐える愛」「恨み」なんか私夫婦にピッタリだな～？ニラのような見た目と匂いの花ニラですが食べることは出来ません。毒性があるとされているので絶対に口にしていけません。万が一食べてしまった場合、激しい下痢を引き起こすと言われています。味もまずいようです。あくまでも観賞用です。

井波明宏 ▶ 成沢健二さん

チャレンジャー！ 昔からそのような先人がいたからこそ、食文化も広がっていったのでしょうね。（例えば河豚の卵巣の猛毒も糠につけたら毒が消えた…。決して真似しないでください。石川県のとある場所の秘伝のようです。）けれども、ハナニラでもしの場合空から見守っててください。朝ドラの「半分、青い」のおばあちゃんのピンコロ話から引用しました（テレビ見てない人にはさっぱりのネタ）。この時期は番組改変も多く、新鮮さもあり、危うさもあるといったところでしょうか？

chatwork「植物閑話」より（※わからない植物は決して口にいけないようにしてください）

次回のイベント予定

今回のイベントは「八ヶ岳森の恵み会 2018 年次総会」です、森の恵み会は3期目を迎えました。3年をひと区切りとしたいところでありましたが、当ボランティアの発起人で先導役でもあった会長の突然の離任を受け、2018年度の総会は、今までの活動の振り返りと今後に向けた新しい企画など、皆様のご意見を伺いながら、楽しい懇話会したいと思います。

開催日時：2018年5月19日（土）13時30分～15：30分くらい

総会内容：2017年度活動・会計報告、役員人事選任、2018年度のイベントについて意見交換会など。

集合場所：筑波大学八ヶ岳演習林管理棟（恵みの森構内）

事前連絡：必須とはしませんが、参加される方は3日前までに事務局に連絡いただくと大変助かります。また、万が一ですが、退会を希望される方は連絡をお願いいたします。

委任状：都合で総会に出席できない方は委任状を郵送またはメール添付で提出いただくと幸いです。形式は自由です。事務局宛にお願いいたします。

WHAT'S NEW ?

2月13日、5年ぶりとなる御神渡りの騒ぎが静まったところで、神さまの足跡（夜這いの跡？）を見に行ってきました。諏訪湖の神様はとても人間的な神様のようですね。下諏訪側のみずべ公園からの一枚です。近くには美味しいと評判のうなぎや小林がありますが、当日はお休みでした。次回に再挑戦の予定です。（成瀬 豊）



森の豆知識（フクジュソウ）

早春、開いた花弁が黄金色に輝くフクジュソウはひととき目を引きまします。福寿草（フクジュソウ）という名前も縁起のよさを印象づけているようです。そんな思いを抱かせるからでしょうか、古くは江戸時代のころより園芸的な栽培も盛んに行なわれてきたようで、今でも観賞用の鉢植え、家の庭先などで見かけます。

ところで、日本に自生しているフクジュソウ、近年の研究で4種類あること皆さんご存知だったでしょうか？キタミフクジュソウ、フクジュソウ、ミチノクフクジュソウ、シコクフクジュソウです。このうち長野県には2

種、北部・中部にフクジュソウ、中部・南部にミチノクフクジュソウが分布すると長野県植物誌（1997）にあります。また、形態的特徴のひとつにフクジュソウは「がく片は花弁と同長かやや短く楕円形」、ミチノクフクジュソウは「がく片は花弁の約3分の2の長さで卵形」であるそうです。花期はミチノクフクジュソウの方が遅いようです。写真左側に長野県南佐久郡南牧村で咲いていたフクジュソウ（2012年3月20日）、写真右側に長野県木曽郡木曽町（2013年3月30日）で咲いていたミチノクフクジュソウを載せておきます。形態的な違いが写真でわかるでしょうか？（井波明宏）



ハケ岳 ちょっと寄り道

ハケ岳界隈で食べ歩いていて強く印象に残るのは野菜の美味しさですが、いつもサラダではもの足りない。そこで妻の犬友達が教えてくれた知る人ぞ知るこのお店。店の前の畑でとれた無農薬野菜を使った煮込み料理のテイクアウト専門店です。メニューは季節ごとに変わりますが、定番は野菜の旨味が濃縮されたミネストローネ（400円）。サンドイッチや稲荷寿司もあり（各200円）、近くの谷戸城址での花見やピクニックのお供に最適です。場所がやや分かりにくいので、ウェブサイトであらかじめ確認することをお勧めします。最近、甲府駅前に支店がオープンしました。（加藤玄）



nicomi831（にこみやさい）

山梨県北杜市大泉町西井出 2501 土・日・祝のみ 7:00-15:00
Tel. 0551-38-1224 <http://nicomi.sblo.jp/>

次号は6月上旬の発行を予定しています。次回イベント「森の恵み会 2018 年次総会」の報告などを掲載します。会員からの投稿も歓迎します、事務局まで原稿や写真などをお送りください。メール添付でも郵送で

も結構ですが、郵送の場合は原則として原稿類を返却しませんのでご了承ください。

■ 表紙の写真と文 「ウッドトーチの製作」：2018年3月17日 杉山昌典

